

Dogushi

胴串 -どぐし-

Autumn 2013

Vol.3

特集

フェスティバルレポート
飯田、シヤルルビル・メジエールから



Dogushi Vol.3 2013年10月発行 発行「人形劇のまち飯田」運営協議会
制作：NPO法人いいた人形劇センター TEL:050-044-0605 FAX:050-044-0604 E-mail: itida-puppet@mis.jan's.or.jp

掲示板 いいた人形劇センターからのお知らせ

人形劇 参加者募集!! ワークショップ第Ⅲ期

プロの演出家、美術家と一緒に人形劇を創るワークショップの第Ⅲ期。今回は2015年1月の初演を目標に人形劇「人魚姫」の制作に取り組みます。脚本・演出はくすのき燕さん、人形美術は吉澤亜由美さん。ほかにさまざまな講師を迎えてレクチャーや基礎レッスンを開催し、多くの視点から人形劇を学びます。

- 開催期間 2013年11月13日～2015年1月
- 募集内容 キャスト、美術、制作スタッフ、演出助手など
- 対象 高校生以上
- 参加費 月2,000円(学生は月1,000円)
- 申込締切 10月31日(木)
- オリエンテーション(説明会) 10月30日(水)19:00 飯田文化会館
- 問合せ TEL.050-3583-3594

Dogushi

並木 さんぽ

いいた人形劇センターが始動して半年がたち、主導の活動も少しずつ発信できるようになってきました。いいた人形劇フェスタが終わり、`ことしの人形劇シーズンは終わり、`と思っている方に朗報?なのかは不明ですが、一年を通して子どもはもちろん、大人まで多くの方に人形劇を楽しみ、さまざまなことを学んでもらえるような企画を考えていきますので、ぜひご参加ください。次号は2014年1月発行予定です。(帆)

表紙イラスト:井原千代子



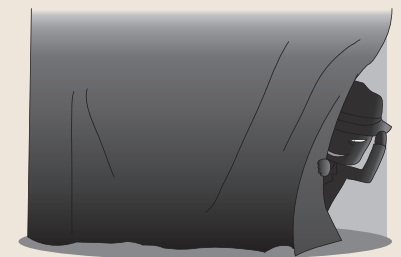
View of IIDA

昭和22年飯田大火の後、復興を目指して育てられてきた「りんご並木」が60周年を迎えました。9月末に開催されたイベントでは写生大会が行われ、大勢の方が収穫の季節の景色を描きました。飯田のシンボルといわれる「りんご並木」のように、人形劇も歴史を重ね、さらに市民に親しまれる存在となりますように。

わかる!! 人形劇 用語

『大黒幕』(おおくるまく) 舞台奥にある文字通り大きな黒い幕のこと。単に「おおくる」と呼ぶこともある。歌舞伎などの伝統芸能では、夜の屋外や無という意味がある。人形劇では「黒子を使用する。移動公演が多い。*ホリゾントライトの使用を

しないケースが多い」などの理由から大黒幕を使用することが多い。当たり前のように使っている、自立する大黒幕だが、これを組み立てると、「芝居は劇場でやるもの」と思っている演劇関係者からは「おおく」と感心をされることもある。ちなみに、世間で黒幕といえば「政治の黒幕」などというように、表舞台に出ず、影でこそこそと人に指図をする悪の親玉のこ



とを指すわけだが、ここから派生したとも言われている。(人形芝居燕屋くすのき燕)

*ホリゾントとよばれる、舞台奥にある通常明るいねずみ色の壁面を照らす器具



市庁舎前「デユカール広場」でのパフォーマンスに大勢の観客が集まる。写真右奥が市庁舎



「AVIAMA」の総会に飯田市から佐藤健副市長が出席。人形劇のまち飯田を世界に向けて発信するとともに、関係都市とのネットワークを広めた



商店のウィンドーは工夫を凝らしたディスプレイで飾られている



深夜になってもビール片手にフェスティバルを楽しむ人でにぎわう

～シャルルビル・メジール世界人形劇フェスティバル～

市庁舎前のデユカール広場や教会の庭でパフォーマンスが始まるとたちまち大きな人の輪。日中だけでなく、夜の12時を過ぎてもさまざまなパフォーマンスが行われ、人々はビールを飲みながら興じています。

有料公演では、インドの三人遣いの人形劇やフランス人によるイギテシアターなど、飯田のフェスタではなかなか見られない人形劇を楽しむことができました。

会期中、今年で3回目となる「人形の友」友好都市国際協会（通称・AVIAMA）総会が開催されました。実質的な活動に取り組みため、ロゴマークの決定、飯田市が提案しシステムを構築した動画投稿サイトの活用のほか、人形劇に関わる人に焦点を当てたプロ写真家による大型写真パネルの巡回展示など、3つのプロジェクトについてワーキンググループを立ち上げ、具体的な取り組みについて検討を始めることを確認しました。

（飯田文化会館館長 小木曾学）



街を歩けば路上のあちこちでユニークなパフォーマンスに出会う



アジアの人形劇相互交流ワークショップ・成果発表報告会

7月27日（土）～8月5日（月）の10日間、インド・カンボジア・ラオス・日本の人形遣いらが飯田に集合。獅子舞、三人遣い、糸操り、影絵、オブジェクトシアターなどお互いの芸能や技術を学び合いました。ワークショップ後の成果発表報告会では「平和」「争い」「災害」「再生」をテーマに、アジア各国の芸能の技法を生かして制作した15分ほどのパフォーマンスを発表しました。



シンポジウム アジアの人形劇～そのルーツ・現在・未来

アジア人形劇フェスティバルの締めくくりとして最終日に開催。立教大名誉教授の小西正捷氏が進行役、ワークショップに参加したインド・カンボジア・ラオス・日本の人形劇人がパネリストとなり、人形に対する考え方や課題、今後の未来について話し合いました。今回のワークショップで互いの作品を融合することで新たな魅力が生まれたように、飯田の地で学んだことをこれからにつなげられれば、との意見が交わされました。



特集

フェスティバルレポート

飯田、シャルルビル・メジールから

今夏、日本最大の人形劇の祭典「いいた人形劇フェスティバル」の15周年を記念して開催されたアジア人形劇フェスティバルの主要イベントをレポート。さらに、9月20日～29日にフランスで開催された「シャルルビル・メジール世界人形劇フェスティバル」の最新情報をレポートします。

わくわく イベントスケジュール

- 10 OCT** 大宮八幡宮秋季祭奉納「今田人形公演」
10月19日（土）19:00、20日（日）12:30
会場／飯田市龍江大宮八幡宮 料金／無料
戎舞・傾城阿波鳴門 順礼歌の段、伊達娘恋緋鹿子 火見櫓の段ほか上演
- 第6回南信州獅子舞フェスティバル**
10月20日（日）9:45～15:30
会場／飯田市中心市街地路上演舞会場（中央通りほか）
飯田下伊那をはじめ、県内から伝統の神楽獅子や屋太夫獅子が一室に集合。わたちゃんのダンボールしまいワークショップ参加者が創作獅子舞コンクールに出場します

- 11 NOV** 人形劇公演in第7回飯田丘のまちフェスティバル
11月3日（日）13:00・15:30
会場／川本喜八郎人形美術館映像ホール 料金／無料
出演／「田辺」普通生活
- 12 DEC** 森のほかほかクリスマス
12月8日（日）10:00～16:00 会場／かごこし子どもの森公園
料金／1人1,000円、親子1,500円、親子3人以上2,000円、人形劇のみ800円 出演／ヨシダ人形劇
人形劇公演のほか、クリスマスリースやオリジナルピザ作りの体験を組み合わせたクリスマススペシャル企画
- 1 JAN** 初春を寿ぐ竹田人形館
1月11日（土）会場／竹田扇之助記念国際系操り人形館

東アジア三大人形劇祭 交流公演

「東アジア三大人形劇祭友好提携」5周年を記念して開催された交流公演。韓国「春川人形劇祭」、台湾「雲林国際偶戲節」、日本「いいた人形劇フェスタ」それぞれが推薦する人形劇団の連続公演とあって会場は超満員。演じる側、観る側も熱が入りました。



アジアの人形芝居展

カンボジア、インドネシア、韓国、タイ、ミャンマー、インド、中国の人形と資料をずらりと展示。インストラクターによる解説のほか、体験コーナーも設置。アジア各国の人形を実際に操作できるとあって連日好評でした。



一切抜いて、勝手、バラバラに集まって勝手に

「やつてみたらこんなだった」
僕らが飯田に提案した人形劇祭典は破天荒なものだった。当時全国で人形劇フェスティバルは盛んに行われていた。川尻泰司さんの呼びかけと指導によるものだ。民主主義と共に第二次世界大戦後育った僕らの人形劇は、みんなで集まり、みんなで話し合い、みんなで実行するものだった。フェスティバルを行うにも根回しし、段取り、手続きがいろいろあつて「僕は聞いてない」とか「誰が決めたんだ」とか喧しいことを申す方々もおいでで民主主義というものもなかなか手間のかかるものだ。

上演できるなんて人形劇の大会はどうだろうと考えた。そりゃ無理だ、そんなことできる筈がないと思つていたところに舞い込んだのが飯田の話だ。渡りに船。いきなりこんな祭典を持ち上げて人形劇の連中は驚いたりはしないと思つてた。今時、人形劇などやつているのは無邪気な愚者だから、さしたる縁もない飯田に手弁当でも上演に来るお気楽な奴もいると思つてた。それを人の好い連中だと思ひ込んだ飯田もお人好しと言え。とにかくこうして文化と地域の天下無敵のパートナーが誕生したのだ。

一言。僕は飯田の人は大好きだが、真面目過ぎる人が多い。この駄文も真面目に読んでいる人がいるのではないかと危惧する。

(つづく)

朧 人形たちのカーニバル

宇野小四郎「人形劇研究者」



宇野小四郎
人形劇団ひとみ座創立メンバーで、(公財)現代人形劇センター元理事長。現在、銀の鈴舎主宰。人形劇の上演・演出・出版事業等、多岐にわたり活躍している。



「複製版 諸国の人形芝居 人形劇カーニバル20周年記念」
河竹繁俊 編 1998年 新華社・飯田市発行

Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から③

「人形劇カーニバル20周年記念」と銘打たれた複製版は、1949年講談社刊の原著に、河竹登志夫、三隅治雄、竹田扇之助による座談会を付記し、一部現代かなづかいに改めて飯田で出版された。河竹繁俊は飯田出身、日本演劇学の権威で、早稲田大学演劇博物館館長、そして「竹田人形座」の命名者、文化功労者、飯田市名誉市民でもあった。

伊那の人形芝居をはじめ、淡路、佐渡、秩父、帛紗、佐伯燈籠など地方に根付く、種類豊かな知られざる人形芝居を紹介しているのは、戦後のこの時代に慧眼であり、興味深い内容。惜しむらくは、原本と同じ変形判でなくなっている点であろうか。 (「人形劇の図書館」湯見英明)



完成した頭を持ち、音楽に合わせてチョウを追いかけたり、片足を上げてポーズをきめたり、創作獅子舞コンクールに向け練習が続きます

突撃!!

人形劇のゲンバ Part3



完成した頭を早速動かしてみようと、開いた口からかわいい顔が見えました

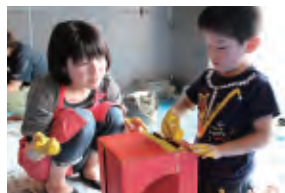


黄色に塗ったところへ油性ペンで一つひとつ慎重に歯を書き込みます

表情豊かな頭を作つて獅子を舞おう!!

ダンボールで獅子頭を作り、獅子を舞うワークショップに、元気な子どもたちが大勢集まるとの情報キャッチ。さっそくゲンバをおさえるべく、会場の飯田市川本喜八郎人形美術館へ直行しました!

始めるのが待ちきれない、といった様子の子どもたちが集まり、あふれんばかりの熱気に包まれています。講師を務めるのは、獅子を舞う男の名で活躍する飯田市の後藤涉さん。「子どものころから友だちと一緒になつて、家にあるダンボール箱で獅子の頭を作つて遊んでいました。飯田下伊那は伝統芸能の獅子舞が盛んですし、子どもたちもお祭りで見ているはず。作る楽しさに加え、地元の伝統芸能を知ってもらえればと思い、このワークショップを始めました。」



細かいところはスポンジを使い、はみ出さないように塗ります



講師の後藤涉さんから耳の付け方を教えてもらいます。目と鼻を付けば完成です

の毛にまで絵の具がついていますが、みんなとても楽しそう。早く動かしたくてうずうずしているのが伝わってきます。完成した頭を持つて舞の練習をした後は、10月20日に開催される「南信州獅子舞フェスティバル」創作獅子舞コンクールに出場です。表情豊かな獅子頭を思いっきり動かして、大勢の観客をあっと言わせてくださいね。

後藤さん手作りの獅子舞キットが手渡されて作業開始。まずは、アクリル絵の具でダンボール全体を赤色で塗るのですが、ここで必要なのは「手」と、絵の具を広げやすいように用意したスポンジのみ。子どもたちは自分の手を使い、繊細かつ大胆に塗っていきます。続いて黄色で歯と目を、さらに黒色で耳と眉毛を塗ります。気が付けば、顔や腕、髪

今田人形の館の舞台には12本の和ろうそくが並べられ「伊達娘恋緋鹿子 火見櫓の段」だけは独特の雰囲気の中で演じられます



いいだ再発見

「今田人形ろうそく公演」の巻

飯田市龍江の大宮八幡宮秋季祭礼で奉納上演される、今田人形座の人形浄瑠璃。江戸時代中期より継承され、現在演じている外題の中でろうそくの灯りだけで上演するのは「伊達娘恋緋鹿子 火見櫓の段」ただ一つです。

「今田人形が生まれた当時、灯りはろうそくなどに限られていたはず。その中でいかに美しく見えるかを人形師たちは苦労して作り上げたに違いない、と座員らで話をしたのが30年ほど前」と事務局長の木下文子さん。昭和63年夏、飯田で開催された「世界人形劇フェスティバル」が、昔の灯り（和ろうそく）で上演する初舞台となりました。

大宮八幡宮秋季祭礼奉納 今田人形公演

10月19日(土) 19:00～宵祭り

戎舞、傾城阿波鳴門 順礼歌の段、菅原伝授手習鑑 寺子屋の段、伊達娘恋緋鹿子 火見櫓の段

10月20日(日) 12:30～本祭り

寿式三番叟、戎舞、加羅先代萩 政岡忠義の段、菅原伝授手習鑑 寺子屋の段

会場：今田人形の館（飯田市龍江）

出演：今田人形座

竜峽中学校今田人形座

龍江小学校今田人形クラブ

入場無料

下さんは話します。見どころは芝居後半、お七が半鐘を打とうと櫓に登っていく場面。演じる三人はもちろん、お七の顔を和ろうそくで照らすつらあかり、を担当する左右の2人、太夫と三味線の呼吸が合い、すべてが一体となる瞬間は見逃せません。

翌年秋からは大宮八幡宮の祭礼で上演され、十年も経てば立派な今田人形の歴史になる、と座員の熱い思いが一つになって始まった芝居は今年で25年。四半世紀が経ちました。今ではこの公演を楽しみに県外からも多くの方が訪れます。「お七の白く小さな顔が照るも曇るも、微妙な和ろうそくの揺らめきがあるからこそ。その中で生まれてくるものを大切に表現していきたい」と木

竹田人形座 竹の子会

飯田市座光寺に「竹田扇の助記念国際糸操り人形館」が開館したのを機に、竹田人形座の糸操りを学ぶ講座が14年前に始まりました。その受講生が「竹田人形座 竹の子会」。現在、高校生3人を含む9人で活動しています。竹田人形座の鈴木友子さんを講師に人形制作から操演まで



人形師・竹田喜之助の人形を手本に座員が作った三番叟、都獅子などの人形はすべて型紙を起こすところから始まります。「手板を持った時にバランスがよく、操演していてブレがない。まさに地に足が付くという表現がびっぴり」と座員の皆さん。メンバーは随時募集しています



講師の鈴木友子さん(写真左)から指導を受ける高校生の対馬由貢さん(写真右)は喜之助フェスティバルでフレンチカンカンを上演。「9人全員で息を合わせることが難しく緊張の舞台でしたが、いい経験ができました」

「基本に忠実であること。そして現時点の100%を出せるよう自信を持って舞台上がることを心掛けている」と話す皆さん。何事にも真摯に向き合う竹田人形座の精神は、主宰の竹田扇の助さんから弟子の鈴木友子さんへ、さらに竹の子会へと受け継がれています。

熱心に取り組み、いいだ人形劇フェスタはもちろん、国内外のイベントに積極的に参加して日頃の成果を披露しています。8月下旬には竹田人形座の人形師だった竹田喜之助ゆかりの地、岡山県で開催された「瀬戸内・喜之助フェスティバル」に参加。複数の演目を上演したほか、鈴木さんが指導にあたる地元劇団とのジョイント公演も果たしました。「1人が3体の人形を操るフレンチカンカンは、舞台上に9人27体がずらりと並びそれは見事。躍動感がありました」と代表の片桐直夫さん。

劇人協会通信

映像と人形・人形劇 その1

日本人形劇人協会 事務局 大沢直

日本人形劇人協会 舞台や映像番組で活躍している実演家と人形劇に関わる仕事を職業とする専門人形劇人の組織。人形劇人相互の親睦交流、活動条件の改善と社会的芸術的地位の向上をはかることを目的に1967年に設立されました。

映像といえは著作権、一回目は著作権の無駄話です。

さて、世の中には著作物というものがあります。著作権者という人もいます。著作権というものもあるのです。あるんだと著作権法に書いてあります。その著作権法が出来たのが明治の御代、さすがえらい、なのですが不平等条約の解消の為とのこと、早とちりはいけません。

著作権＝一円札、違います。著作権は許諾する権利です。何々権、何とか権いろいろありますが、それを許諾するかどうかの権利です。この権利は譲渡することができます。著作権者とは、著作権者が違ふということのままあることです。

ただ油断は禁物、著作権には人格権というものもあり、これは固有の権利、著作権者が別になっても働きます。主なものは改変権、勝手に変えるなよ、となります。で、

保護期間。伸びる傾向にあります。芸術文化の発展を阻害するという意見も多いのですが、世界で最も有名なネズミには太刀打ちできないわけです。著作権に準ずるものとして著作権隣接権という考えがあります。米国にはありません。国際会議は大揉めです。隣接権は著作物を利用する立場ですが創造もあるということで、俳優、歌手、演奏家等に認められています。ということでしょうか、人形劇。劇を作ります。その著作権は誰だ、誰もいません。映画は監督が著作権者ですが、演出家は隣接権、あくまでも著作物を利用する人なのです。うーん、そっかあ、なのです。



※写真はイメージです